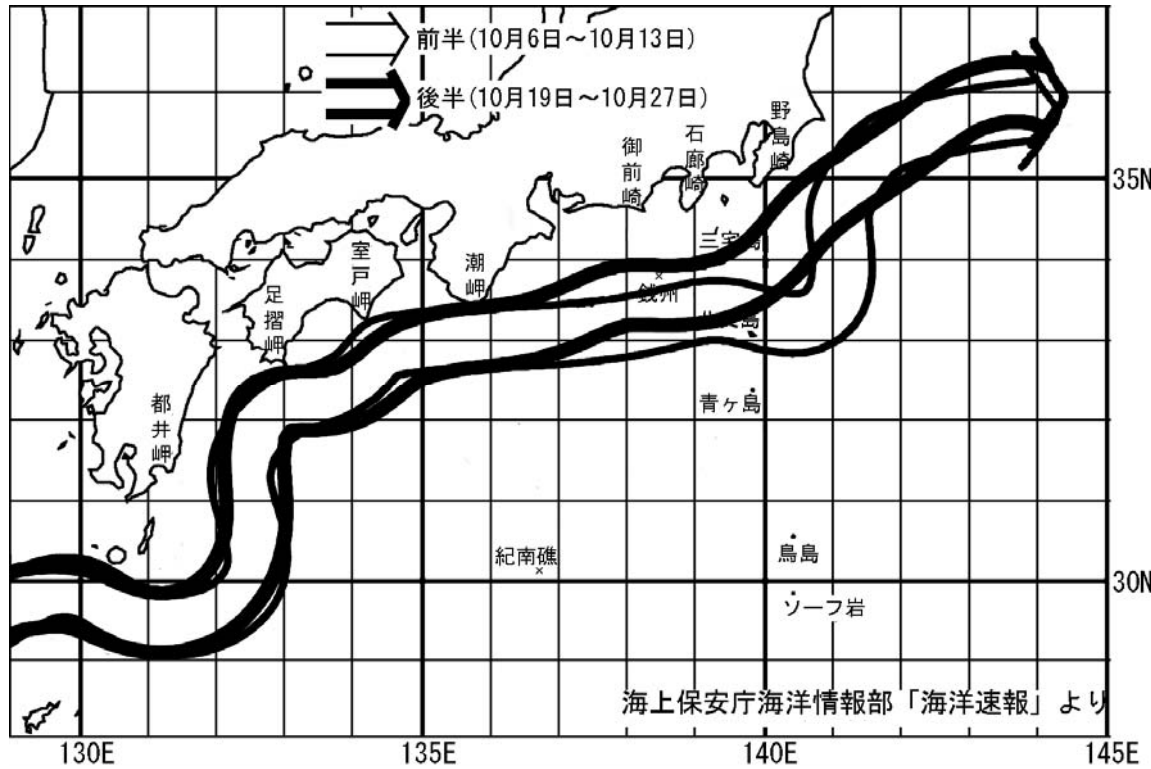


漁海況月報

平成23年10月1日

No. 10 ~10月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	23.3	23.6	23.0	23.9	23.2	23.5	22.3
	1.2	0.5	-0.1	0.3	0.2	1.1	-0.1
中旬	22.5	22.2	21.6	23.1	22.2	22.7	21.8
	1.0	-0.3	-0.6	0.2	-0.3	1.0	0.5
下旬	20.8	21.0	20.9	21.9	20.9	20.7	20.0
	0.1	-0.6	-0.4	-0.2	-0.5	-0.2	0.0
月	22.2	22.2	21.8	22.9	22.0	22.2	21.4
	0.8	-0.1	-0.4	0.1	-0.2	0.6	0.1

【黒潮流路】

前半の黒潮は、足摺岬～潮岬で接岸して遠州灘沖を東進した後、八丈島付近を通過して房総半島沖へ流去した。後半の黒潮も足摺岬～潮岬で接岸したが、遠州灘～石廊崎沖を前半よりも若干接岸して東進し、八丈島と三宅島の間を通過して房総半島沖へ流去した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は概ね20～23°C台で経過し、相模湾側でやや高め～やや低め、駿河湾東部で平年並み、駿河湾西部でやや高め～平年並みであった。中旬に伊豆諸島付近の蛇行が東進した後に黒潮が接岸したことから、沿岸域に中旬から下旬に暖水波及が見られた。

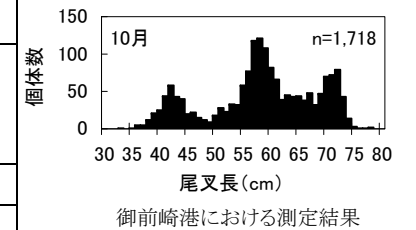
【竿釣近海カツオ】

県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は39トで前年同期の62%であった。魚価は513円/kgで、前年同期を下回った。

静岡県近海では33°50'～34°25'N、138°40'～139°E付近の銭州からひょうたん瀬にかけて、大、中(尾叉長58cmモード)、特大、特特大(尾叉長72cmモード)、極小、小(尾叉長42cmモード)カツオを水揚げした。

竿釣りカツオ水揚量 (近海・沿岸、県内主要5港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
23年 10月上旬	4	1	4.0	326
中旬	14	6	2.3	328
下旬	21	11	1.9	677
23年 10月計	39	18	2.2	513
22年 10月計	63	24	2.6	244
21年 10月計	91	62	1.5	479



【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は420トで、前年の同漁場の水揚量(221ト)の1.9倍となった。また、1か統あたりの水揚量は60.0トで前年(31.5ト)及び平年(昭和57～平成22年の平均43.0ト)のそれぞれ、1.9倍、1.4倍と好漁となった。

魚種別の漁獲量をみるとウルメイワシ、モロ、シイラ、サバ類、マルソウダの順に多かった。ウルメイワシは前年及び平年を大きく上回る98.3トの漁獲があり、伊豆山、古網漁場で全漁獲量の約9割に当たる89.2トの漁獲があったことが特徴であった。また、モロ、シイラも北川漁場を中心に漁獲され、全体として前年及び平年を大きく上回る水揚げがあった。

サバ類は尾叉長で31～34cmのゴマサバ主体に漁獲されたが、前月と同様に平年を下回る量にとどまった。

漁場別の漁獲量では、伊豆山漁場が106ト(ウルメイワシ、モロ、シイラなど)、北川漁場が93.7ト(モロ、シイラ、サバ類など)、古網漁場が83.9ト(ウルメイワシ、モロ、シイラなど)、富戸漁場が40.1ト(シイラ、サバ類、モロなど)の順に多かった。

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
ウルメイワシ	98.3	76.7	9.5	伊豆山、古網、谷津
モロ	94.1	2.4	8.5	北川、古網、伊豆山
シイラ	68.9	47.7	22.5	北川、富戸、古網
サバ類	56.6	1.2	0.7	北川、谷津、伊豆山
マルソーダ	24.2	0.3	0.6	伊豆山、古網、北川

[サバたもすくい・棒受網]

小川港には、たもすくい・棒受網によってゴマサバ668トン(前年同月比97%)が水揚げされ、1隻あたり水揚量は30.4トン/隻(前年同月比88%)であった。ゴマサバの平均単価は54円/kgと前月(54円)並で、前年同月(39円)を上回った。

棒受網の漁場は、月を通じ三本、三宅に形成された。

ゴマサバの尾叉長モードは29cmついで26cmに見られ、前者は2歳魚(2009年級群)、1歳魚(2010年級群)主体、後者は1歳魚(2010年級群)、0歳魚(2011年級群)主体であった。また、月を通じて22~23cm、32cmモードのオアカムロが混獲されたほか、中旬以降20cmモードのモロの混獲が見られた。モロは下旬の各船水揚量の3~25%を占め、オアカムロを上回った。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
23年10月上旬	0	184	3	6	0.0	30.7	—	56	三本
中旬	0	276	4	9	0.0	30.6	—	54	三本、三宅
下旬	0	208	3	7	0.0	29.7	—	53	三宅、三本
23年10月計	0	668	10	22	0.0	30.4	—	54	—
22年10月	0	690	8	20	0.0	34.5	—	39	三宅
21年10月	0	734	9	18	0.0	40.8	—	36	三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[サクラエビ船曳網]

平成23年の秋漁は、10月31日が初漁となり、漁場探索が行われた。10月の水揚量は1日間で12トンであった。漁場は主に焼津~相良沖に形成された。

また、漁獲されたサクラエビは、体長32mmにモードを持つ当歳エビと41mmにモードを持つ1歳エビで構成された。

サクラエビ水揚量

期間	水揚量(トン)	日数	1日1か統当り(kg)	漁場
平成23年10月上旬	—	—	平均 —	—
中旬	—	—	平均 —	—
下旬	12	1	平均 200	焼津~相良沖
平成23年10月計	12	1	平均 200	—
平成22年10月計	—	—	平均 —	—
平成21年10月計	2	1	平均 33	由比~三保沖

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が516kg、遠州灘が505kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は508kgと前年同期(430kg)の118%、平年同期(過去5か年平均:295kg)の172%と前年、平年を上回った。また、総水揚量は1,241.2トンで前年同期(887.1トン)の140%、平年同期(657.5トン)の189%と前年、平年を上回った。平均単価は559円/kgと平年同期(758円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新居	121.5	20	256	475	426
舞阪	294.7	16	729	404	551
福田	290.8	18	479	607	474
御前崎	114.8	17	164	700	492
吉田	220.0	19	453	486	586
静岡	199.5	17	360	554	787
平成23年10月計	1,241.2		2,441	508	559
平成22年10月計	887.1		2,063	430	582
平成21年10月計	351.6		1,589	221	768

[まき網]

小川港ではマイワシが736.8トンの水揚げで平年同期(93.5トン)の7.9倍であった。沿津港では、マイワシが2,240.4トンの水揚げで平年同期(188.5トン)の12倍であり、10月水揚げ量としては1996年以降最高を示した。当歳魚の漁獲が中心であった。静岡港では、マイワシの水揚げはなく(平年同期0.6トン)、カタクチイワシの水揚げもなかった(平年同期もなし)。伊東港ではマイワシが11.4トンの水揚げで、平年同期(34.9トン)の33%であった。

注)平年同期:過去5か年(2006~2010年)平均

[調査船の動向]

駿河丸

10月 3日	~	10月 5日	地先定線調査	(3日間)
10月 6日	~	10月 7日	サクラエビ IKMT 調査	(2日間)
10月 11日	~	10月 12日	シラス・ハダカイワシ調査	(2日間)
10月 13日	~	10月 14日	サクラエビ IKMT 調査	(2日間)
10月 17日			公共用水域水質測定調査	(1日間)
10月 24日	~	10月 25日	タチウオ調査	(2日間)
10月 27日	~	10月 28日	サバ調査	(2日間)
10月 29日			サバ祭り	(1日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

